

研究員 の眼

投信からの資金流出が続いた 2019 年 ～2019 年 12 月の投信動向～

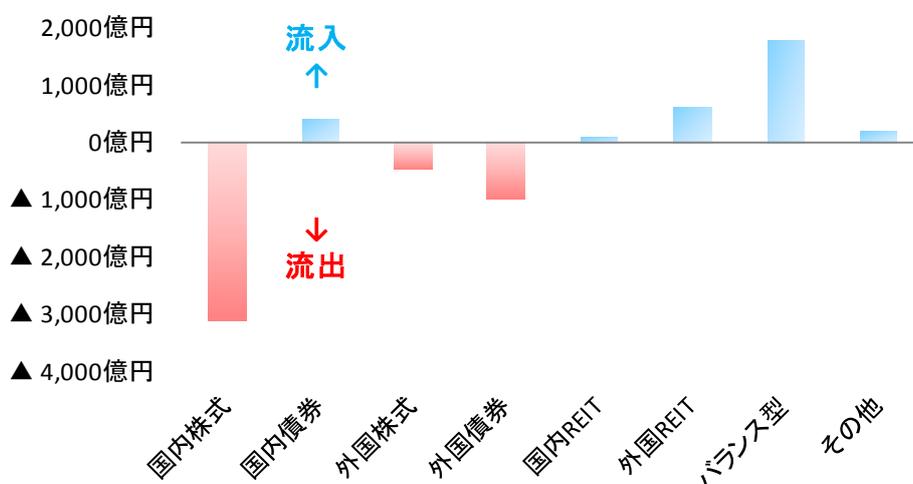
金融研究部 准主任研究員 前山 裕亮
(03)3512-1785 ymaeyama@nli-research.co.jp

ファンド全体から3カ月連続の資金流出

2019 年 12 月の日本籍追加型株式投信（ETFを除く。以降、ファンドと表記）の推計資金流出入をみると、12 月は国内株式、外国債券、外国株式から資金流出があった【図表 1】。ただ、11 月と比べると 12 月は外国債券こそやや資金流出が拡大したが、国内株式は 3,250 億円から 3,100 億円と資金流出がやや鈍化し、外国株式は 1,800 億円から 450 億円と資金流出が大きく減少した。それに加えて国内 REIT は流入金額が 100 億円未満と少額であったが、12 月は資金流入に転じた。その他、バランス型、外国 REIT、国内債券には 11 月から引き続き資金流入があった。特に、バランス型は 11 月の 1,600 億円から 1,800 億円、国内債券は 11 月の 200 億円から 400 億円と流入がやや増加した。

ファンド全体では、国内株式と外国債券の資金流出が大きかったため、12 月は 1,400 億円の資金流出となり、10 月から 3 カ月連続の流出超過となった。それでも 12 月は、外国株式からの資金流出が 11 月から大きく減少したこともあり、11 月の 3,400 億円の資金流出から流出金額は半減した。

【図表 1】 2019 年 11 月の日本籍追加型株式投信（除く ETF）の推計資金流出入



（資料）Morningstar Direct より作成。各資産クラスはイボットソン分類を用いてファンドを分類。

内外株式ともに売却が続く

ただ、国内株式、外国株式ともに資金流出は11月から鈍化こそしたが、12月は世界的に株価が上昇する中、内外ともに利益確定に伴う売却が引き続き多かった様子である。

国内株式については、インデックス・ファンドからの資金流出が11月の1,000億円に対して12月も950億円と同程度で、アクティブ・ファンドは11月の1,950億円から12月は2,300億円と資金流出が加速した（なお、流出金額はインデックス・ファンド、アクティブ・ファンドともにSMA専用、DC専用ファンドを除外している）。一般販売されていないSMA専用もしくはDC専用の国内株式ファンドは11月の300億円の資金流出から12月は100億円強の資金流入に転じたが、一般販売されている国内株式ファンドはアクティブ・ファンドを中心に11月以上に12月に売却されていたことが分かる。12月は日経平均株価が2018年10月上旬以来、1年2カ月ぶりに一時2万4,000円を回復するなど高値圏で推移した。そのため、国内株式のアクティブ・ファンドに投資している中長期の投資家が12月も利益確定の売却に動いたと思われる。

外国株式については、11月の1,800億円の資金流出から12月は450億円の資金流出に大幅に鈍化した。鈍化の主な要因は大規模な新規設定ファンドであり、新規設定ファンドを除くと11月と同様に売却が膨らんでいた。実際に12月は、新設された外国株式ファンド（うち2本は【図表2】赤太線）に1,900億円に迫る資金流入があった（ちなみに11月は新設ファンドに400億円の資金流入があった）。それらを除いた既存の外国株式ファンドに限ると12月は2,300億円の資金流出があり、11月の2,200億円からやや拡大した。やはり、12月は外国株式も国内株式と同様に11月以上に利益確定に伴う売却も多かったようだ。個別でみると、2019年前半に人気を集めたバイオ・ヘルスケア株ファンドからの資金流出が11月の500億円から12月は800億円と加速している。それに加えて、ロボット、AIといったテクノロジー系のテーマ株ファンドからも引き続き大規模な資金流出があった。

2019年は内外株式と外国債券から資金流出

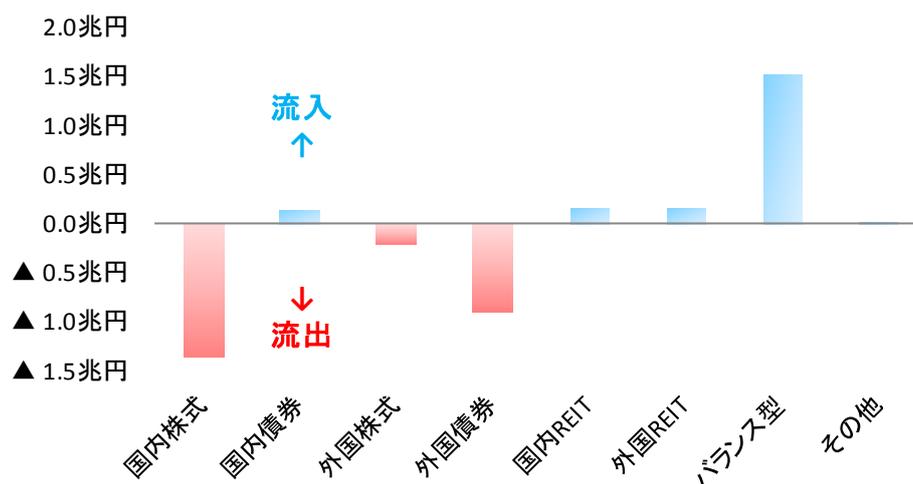
2019年を振り返ると、1年通して足元の12月と同様の傾向があった【図表3】。2019年は、多くの地域で株価上昇が続いたため、内外株式は12月に限らず利益確定に伴う売却が膨らんだ。外国株式は一部のファンド（【図表4】赤太字）が人気を集めたこともあり、1年間で2,000億円程度の資金流出と小規模な流出であったが、国内株式は資金流出が1年で1.4兆円に迫った。足元12月末時点で国内株式全体の純資産総額が10.3兆円であるので、実に1割以上がこの1年で流出した。国内株式の資金流出が大きかったため、ファンド全体でみても2019年は1年で5,000億円の純流出となった。

【図表2】2019年12月の推計純流入ランキング

ファンド名	運用会社	12月の推計純流入	純資産12月末時点
1位 ティール・ロウ・プライス 米国成長株式ファンド	ティール・ロウ・プライス・ジャパン	1,483 億円	1,479 億円
2位 ピクテ・グローバル・インカム株式ファンド(毎月分配型)	ピクテ投信投資顧問	569 億円	10,061 億円
3位 グローバル3倍3分法ファンド(1年決算型)	日興アセットマネジメント	471 億円	3,600 億円
4位 ひふみワールド+	レオス・キャピタルワークス	338 億円	342 億円
5位 グローバル3倍3分法ファンド(隔月分配型)	日興アセットマネジメント	292 億円	1,947 億円
6位 東京海上・円資産バランスファンド(毎月決算型)	東京海上アセットマネジメント	267 億円	7,237 億円
7位 マンAHLスマート・レバレッジ戦略ファンド	大和証券投資信託委託	246 億円	577 億円
8位 東京海上・円資産バランスファンド(年1回決算型)	東京海上アセットマネジメント	236 億円	2,854 億円
9位 ダイワ・US-REIT・オープン(毎月決算型) Bコース(為替ヘッジなし)	大和証券投資信託委託	182 億円	5,950 億円
10位 ダイワJ-REITオープン(毎月分配型)	大和証券投資信託委託	164 億円	3,266 億円

(資料) Morningstar Direct より作成。ETF、SMA 専用、DC 専用ファンドは除く。

【図表3】2019年の日本籍追加型株式投信(除くETF)の資金流出入



(資料) Morningstar Direct より作成。12月分のみ推計値を使用。
各資産クラスはイボットソン分類を用いてファンドを分類。

【図表4】2019年の純流入ランキング

順位	ファンド名	運用会社	2019年の純流入 (億円)	純資産12月末時点 (億円)
1位	ピクテ・グローバル・インカム株式ファンド(毎月分配型)	ピクテ投信投資顧問	4,262	10,061
2位	グローバル3倍3分法ファンド(1年決算型)	日興アセットマネジメント	3,397	3,600
3位	グローバル・プロスペクティブ・ファンド	日興アセットマネジメント	2,545	2,785
4位	東京海上・円資産バランスファンド(毎月決算型)	東京海上アセットマネジメント	2,288	7,237
5位	グローバル3倍3分法ファンド(隔月分配型)	日興アセットマネジメント	1,876	1,947
6位	次世代通信関連 世界株式戦略ファンド	三井住友トラスト・アセットマネジメント	1,672	4,667
7位	東京海上・円資産バランスファンド(年1回決算型)	東京海上アセットマネジメント	1,602	2,854
8位	ティー・ロウ・プライス 米国成長株式ファンド	ティー・ロウ・プライス・ジャパン	1,483	1,479
9位	ダイワJ-REITオープン(毎月分配型)	大和証券投資信託委託	1,389	3,266
10位	グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)	日興アセットマネジメント	1,127	1,222

(資料) Morningstar Direct より作成。ETF、SMA 専用、DC 専用ファンドは除く。12月分のみ推計値を使用。

また、2019年は外国債券からの資金流出も大きかった。外国債券ではすべての月で資金流出となり、流出金額は累計で9,000億円に迫った。外国債券からの資金流出の大部分は、外国債券の約7割を占める毎月分配型ファンド(足元12月末時点で外国債券の純資産総額12.7兆円のうち毎月分配型が8.6兆円)からであった。毎月分配型の外国債券ファンドからは2019年に1.1兆円の資金流出があり、1.6兆円の資金流出があった2018年と比べると鈍化したが、2019年も資金流出が止まらなかった。

その一方でバランス型には1年間で1.5兆円の資金流入があった。「東京海上・円資産バランスファンド」のような伝統的なものだけでなく、「グローバル3倍3分法ファンド」に代表されるレバレッジを活用したものも人気を集めた。さらに、DC専用のバランス型ファンドへ1年間で3,000億円を超える資金流入があり、確定拠出年金からの資金も下支えしていた。バランス型に加えて、流入規模こそ小さかったが国内REIT、外国REIT、国内債券にも12月と同様に1年通してみても流入超過であった。2019年に最も資金流入が大きかったのが「ピクテ・グローバル・インカム株式ファンド」であったことから分かるように、2019年は投資家のインカム選好が顕著であった。

2020年はどうなるだろうか。外国債券(特に毎月分配型ファンド)からの資金流出は収まる気配がなく、まだ当面は続くと思われる。その一方で内外株式の資金流出や投資家のインカム選好が続くのかは、金融市場の動向次第といったところだろう。また、バランス型の人気が続くのか、それとも「バランス型ファンドでの資産運用」の人气が定着し、定番となっていくのか注目である。

2019 年は前年低迷した株式ファンドが特に上昇

12月にパフォーマンスが良好であったファンドをみると、ブラジル株ファンドが総じて好調であった【図表5】。12月は英総選挙結果や米中問題の進展を好感し、投資家のリスク回避姿勢が弱まり、世界的に株価が上昇し、内外問わず株式ファンドは総じて上昇した。そのような中、ブラジルと関係が深い中国で足元の景況観が改善したことやブラジル中銀の断続的な利下げによるブラジル景気の下支え期待なども加わり、ブラジル株式は大きく上昇した。さらに為替市場でブラジル・レアルが対円で5%ほど上昇したことも追い風になり、ブラジル株ファンドは12%程度上昇した。

2019年通してパフォーマンスが良好であったファンドをみると、一部のテクノロジー系のテーマ株ファンド（青太字）と中国株ファンド（赤太字）が好調であった【図表6】。2019年は市場平均（MSCI ACWI）が円建てで26%上昇するなど世界的に株式ファンドは上昇したが、それらのファンドの収益率は40%を超えており、特に上昇が大きかった。ただ、その一方で2019年に特に上昇したファンドの多くが2018年は20%以上下落しており、2018年の下落幅が11%であった市場平均と比べて大きかった。2018年の下落が大きかった分、2019年に株価が反転する中、上昇も大きくなった面もあるといえるだろう。2018年に我慢してそれらのファンドを保有し続けた投資家にとっては、2019年はまさに報われた1年となったといえよう。

【図表5】2019年12月の高パフォーマンス・ランキング

ファンド名	運用会社	12月の収益率	過去1年収益率	純資産 12月末時点
1位 HSBC ブラジル オープン	HSBC投信	12.9%	26.5%	332 億円
2位 HSBC ブラジル株式ファンド(3ヶ月決算型)	HSBC投信	12.8%	25.1%	13 億円
3位 LM・ブラジル高配当株ファンド(毎月分配型)	レグ・メイソン・アセット・マネジメント	12.6%	27.3%	53 億円
4位 BNPパリバ・ブラジル・ファンド(株式型)	BNPパリバ・アセットマネジメント	12.4%	29.1%	87 億円
5位 資源ファンド(株式と通貨)南アフリカランド・コース	日興アセットマネジメント	12.3%	17.8%	39 億円
6位 ダイワ・ブラジル株式ファンド	大和証券投資信託委託	12.3%	25.3%	34 億円
7位 資源ファンド(株式と通貨)ブラジルリアル・コース	日興アセットマネジメント	12.2%	8.5%	128 億円
8位 資源株ファンド 通貨選択シリーズ(ブラジルリアル・コース)(毎月分配型)	日興アセットマネジメント	12.1%	8.5%	208 億円
9位 ブラジル高配当株オープン(毎月決算型)	三井住友トラスト・アセットマネジメント	12.1%	26.0%	117 億円
10位 ブラックロック・ラテンアメリカ株式ファンド	ブラックロック・ジャパン	11.8%	19.5%	23 億円

(資料) Morningstar Direct より作成。2019年12月末残高が10億円以上のETF、ブル・ベア型以外のファンドでランキング。

【図表6】2019年の高パフォーマンス・ランキング

ファンド名	運用会社	2019年 収益率	2018年 収益率	純資産 19年末時点
1位 フィデリティ・セレクト・ファンド(テクノロジー)	フィデリティ投信	58.0%	-25.6%	40 億円
2位 深セン・イノベーション株式ファンド(1年決算型)	日興アセットマネジメント	54.3%	-35.0%	385 億円
3位 UBS中国A株ファンド(年1回決算型)	UBSアセット・マネジメント	49.8%	-28.0%	105 億円
4位 情報エレクトロニクスファンド	野村アセットマネジメント	49.3%	-22.8%	99 億円
5位 野村世界業種別投資シリーズ(世界半導体株投資)	野村アセットマネジメント	48.6%	-15.5%	159 億円
6位 UBS中国A株ファンド(年4回決算型)	UBSアセット・マネジメント	48.4%	---	23 億円
7位 UBS次世代テクノロジー・ファンド	UBSアセット・マネジメント	48.4%	-10.7%	148 億円
8位 新興国ハイクオリティ成長株式ファンド	アセットマネジメントOne	46.4%	-17.3%	1096 億円
9位 UBS中国株式ファンド	UBSアセット・マネジメント	44.6%	-20.4%	129 億円
10位 ザ・2020ビジョン	コモズ投信	44.0%	-21.6%	46 億円
参考 MSCI ACWI(円建・配当込み)		26.1%	-11.3%	

(資料) Morningstar Direct より作成。2019年12月末残高が10億円以上のETF、ブル・ベア型以外のファンドでランキング。

(ご注意) 当資料のデータは信頼ある情報源から入手、加工したものです。その正確性と完全性を保証するものではありません。当資料の内容について、将来見解を変更することもあります。当資料は情報提供が目的であり、投資信託の勧誘するものではありません。